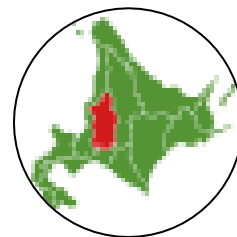


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】＝



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮意識の普及啓発

空知総合振興局では、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、「そらちエコラウンジ」事業を実施しています。

平成28年度は、空知総合庁舎における環境行動に関するパネルの展示やふかがわスプリングフェスタ、いわみざわ環境フェスタ、赤平市消費者生活展に出展し、来場者にオリジナルエコバッグ作りや石けんの手作りを体験していただき、環境行動の普及啓発を行いました。

今後も「そらちエコラウンジ」事業を継続し、空知管内の市町がエコの輪でつながれるよう効果的な取組を進めていきます。

■地球温暖化防止月間パネル展



■ふかがわスプリングフェスタ



2 タ張岳の高山植物保護

富良野芦別道立自然公園の南端近くに位置する標高 1,668m のタ張岳は、ユウバリソウ、ユウパリコザクラ、シソバキスミレなどの希少な固有種をはじめ、北海道の山岳でみられる高山植物のほぼ全てがみられ、国の天然記念物に指定される花の名山として知られています。

空知総合振興局では、こうした高山植物の盗掘や絶滅が懸念される希少種の保護対策として、地元で保護活動を行っているユウパリコザクラの会を始め関係機関・団体と協力し、登山者にパンフレットの配布を行うなど高山植物の盗掘防止キャンペーンを実施するとともに、道警とも連携し、ヘリコプターを使った上空からの監視など、盗掘防止のための監視活動を行っています。

■シソバキスミレ



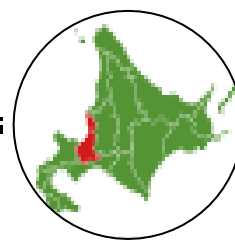
■ユウバリソウ



■ユウバリソウの生育区域（山頂付近）



＝【石 狩】＝



1 赤れんがガイアナイト 2016

北海道では、北海道洞爺湖サミットを契機に、「北海道地球温暖化防止対策条例」に定められた「北海道クールアース・デイ」（毎年 7 月 7 日）の関連イベントとして、毎年、「赤れんがガイアナイト」を開催していますが、石狩振興局では、平成 28 年の取組として 7 月 7 日に北 3 条広場において、電気照明を消してキャンドルのやわらかな光の中で、道民の方々に静かに地球環境に思いをめぐらせていただくことを目的として、道旗のモチーフである「七稜星」と温暖化防止のメッセージ「LOVE EARTH」を組み合わせたデザインで、キャンドルアートを製作しました。

■キャンドルアート 七稜星



■キャンドルアート LOVE EARTH



2 3R推進キャンペーン&北海道クリーン作戦「ポイ捨てゼロの日」街頭啓発

石狩振興局では、平成 28 年 10 月 5 日、札幌駅・太陽の広場及び地下街アピアにおいて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進を図ること及び空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻の散乱防止を目指し、道民の環境意識の高揚とモラルの向上を図るため関係団体と合同で啓発活動を行いました。「やめようたばこ、空き缶等のポイ捨て」ののぼりをたて、3R 啓発ティッシュ、エコバッグを配布するとともにポイ捨てゼロへのご協力について声かけを行いました。

■環境忍者えこ之助 参上！



■3Rを推進する くるりん



3 マルハナバチ調査隊 2016 in サッポロさとらんど

「特定外来生物」であるセイヨウオオマルハナバチが野生化し、全道に生息域を広げつつあるため、道では、ボランティアとして「セイヨウオオマルハナバチバスターズ」を募り、全道各地で防除活動を進めています。

石狩振興局管内でも、多くのセイヨウオオマルハナバチが確認されており、「バスターズ」の皆さんが防除を行っていますが、完全に駆除するにはまだまだ大変な努力が必要です。

このため、より多くの皆さんに防除活動にご理解とご協力をいただけるよう、平成 28 年 7 月 23 日に、サッポロさとらんどにおいて「マルハナバチ調査隊 2016 in サッポロさとらんど～白いおしりをつかまえろ！～」を開催しました。

当日は 21 名の参加者が集まり、セイヨウオオマルハナバチの生態や識別方法などを学んだ後、それぞれ防虫網を使って捕獲作業を行い、78 頭のセイヨウオオマルハナバチを捕獲し、参加者の皆さんに多くのセイヨウオオマルハナバチが生息していることを実感していただきました。

また、同時に在来種の観察も行い、エゾオオマルハナバチ 15 頭、アカマルハナバチ 1 頭、エソトラマルハナバチ 12 頭、ハイイロマルハナバチ 14 頭が観察されました。

今後も、石狩振興局では、市町村や企業・団体などの協力を得ながら、セイヨウオオマルハナバチの防除活動に取り組んでいきます。

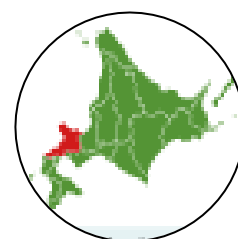
■マルハナバチの生態等の説明



■マルハナバチの捕獲を実践



＝【後 志】



1 尻別川水質教室

蘭越町及び NPO 法人しりべつリバーネットは、毎年、尻別川クリーン作戦を実施し、流域の清掃活動を行っています。徒歩で陸側から近づけない場所は、ラフティング体験等の営業をしている事業者の協力を得て、カヌーやボートで川側からも回収を行っています。

後志総合振興局は、このイベントにあわせ、クリーン作戦の会場にブースを設けて、「水質教室」を開催しました。水質教室では参加者に、COD（化学的酸素要求量）や水生生物の種類・数により、尻別川の水質の状態を確認していただき、台所排水やジュースの COD を、尻別川と同等まできれいにするためには、どのくらいの水で希釈する必要があるかを実験により学んでいただきました。

参加者は尻別川の水質が良好であることを実感するとともに、古くなった油などを安易に台所から流さないよう留意する意識が生まれるなど、水環境保全の啓発につながったものと考えています。

後志総合振興局では、引き続き、清流日本一の尻別川を含む管内河川の環境保全のための取り組みを推進していきます。

2 環境学習「スーパーエコレンジャー★いちご隊」

平成 28 年 10 月 27 日（木）に倶知安町内の藤幼稚園で環境学習「スーパーエコレンジャー★いちご隊」を実施しました。

園児たちは紙芝居や絵のなかの無駄をみつけるゲーム「エコミッケ」で「もったいない」気持ち

を学びました。

最後は「止めようと思うもったいないこと」、「地球に優しくすること」を葉っぱにかいて、「環境の木」を作りました。

園児たちが将来、環境に配慮した生活を実践し、また、環境保全活動の中心となる人に育ってくださることを期待しています。

■エコミッケ



■環境の木



3 大平山高山植物盗掘防止パトロール

島牧村にある大平山（オビラヤマ）は超塩基性の地質であることから、オオヒラウスユキソウ等の希少な高山植物等が生育しています。後志総合振興局では関係機関や民間団体と協力し、「大平山高山植物保護対策協議会」（事務局：環境生活課）を設置し、保護対策や盗掘防止等について、検討や協議をしています。

また、関係者で大平山高山植物盗掘防止パトロールを年間5回ほど実施し、高山植物の生育状況の確認、入山者への普及啓発、自然歩道等の修復及び注意標識の設置等を行っています。

入山から下山まで、約8時間を要するハードなパトロールとなっていますが、関係者の努力が奏功し、ここ数年間は高山植物の盗掘は確認されておりません。

■オオヒラウスユキソウ



■協議会で設置した標識



4 THEキャンプフェス～山の日制定記念～

平成28年度に山の日が制定されたことを記念して、羊蹄山自然公園（真狩村）で真狩村主催、環境省共催で「THE キャンプフェス～山の日制定記念～」が開催されました。

トークライブや南こぶ山登山会、木工クラフトなど様々な催しが行われました。トークライブでは登壇者から、羊蹄山の今と昔の様子や生息する動植物の特徴、登山に必要な装備等について、後志総合振興局からはヒグマとの事故をなくすための基本的なルールを伝えました。

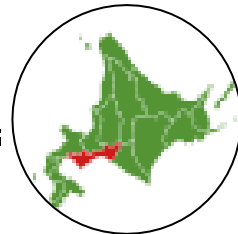
■トークライブの様子



また、平成 26 年度に新しくなった羊蹄山避難小屋は、以前よりも規模が縮小したことから、日帰り登山を推奨するとともに、改めて避難小屋とトイレの利用方法を説明しました。

参加者には、様々な自然体験プログラムをとおして、自然の中で遊ぶ楽しさを感じていただきました。

＝【胆 振】＝



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成 20 年 7 月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

(1) いぶりガイアナイト 2016

平成 28 年 7 月 14 日に、むろらん広域センタービル 1 階ロビーにおいて、「いぶりガイアナイト 2016」を開催しました。

開催に先立ち、ガイアナイト写真展とともに、製作したキャンドルホルダーを会場ギャラリーで展示しました。

また、当日は、お話し会やハンドベルミニコンサートを開催し、来場された地域の方々と地球環境のためにできることを考える時間を過ごしました。

そのほか、庁舎ビルや室蘭のシンボルである測量山、白鳥大橋のライトダウンも併せて行いました。

■キャンドルホルダーづくり



■ハンドベルミニコンサート



■パネル展示



(2) NPO 法人等の取組

胆振管内では、身近な自然の復元を図る事業としてビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」や室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために浜の清掃活動や学校で子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動している「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、NPO 法人や各種団体等による様々な環境保全活動が行われています。

胆振総合振興局では、これらの NPO 法人が実施する取組に対して積極的に参加しています。

(3) いぶりウォームビズ・フードマイレージ

平成 28 年 12 月 12 日から 16 日まで、むろらん広域センタービル 1 階ロビーにおいて、「いぶりウォームビズ」、平成 29 年 2 月 20 日から 24 日まで同センタービル 1 階ロビー並びに菓子工房モン・パリにおいて、「いぶりフードマイレージ」を開催しました。

むろらん広域センタービルでは、12 月の地球温暖化防止月間に併せて省エネ 3S キャンペー

ンやウォームビズの取組などについて、2月には、フードマイレージのパネル展示や啓発品の配布を行うとともに、本事業と一緒に取り組んだ「菓子工房モン・パリ」において、ポスター展示及び啓発チラシの配布を行いました。

■いぶりウォームビズ



■いぶりフードマイレージ



2 野生鳥獣対策

胆振管内を含む北海道西部地域のエゾシカ生息数は、平成23年度をピークに増加から減少に転じつつありますが、未だ、農林業被害や交通事故など様々な問題を引き起こしています。

このようなエゾシカによる被害を防止するため、胆振総合振興局では、胆振地域エゾシカ・ヒグマ対策連絡協議会を開催するなど、関係機関の連携により、エゾシカを始めとした有害鳥獣の捕獲体制の強化等を推進しています。

また、エゾシカの有効活用を推進するため、大谷室蘭高等学校における食育授業の一環としての「エゾシカ出前講座」（参加者数51人）の開催や、各種イベントにおけるパネルの展示など、シカ肉の利用促進や普及啓発に努めています。

このほか、登別市では市内で製造されたシカ肉の缶詰やシカ肉のジンギスカンを「登別ブランド推奨品」として認定するなど、地域独自で有効活用に取り組む動きもみられています。

■大谷室蘭高校でのエゾシカ出前講座

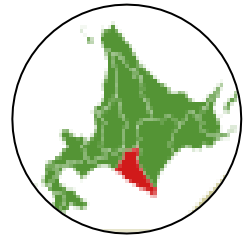


■エゾシカ有効活用（シカ角ストラップ）



■シカ肉缶詰





1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

日高振興局では、7月7日の北海道クールアース・デイと連携し、住民の皆さんに地球温暖化防止の意識を高めていただくことを目的に、平成23年度からガイアナイトイベントを開催しています。

平成28年度は、7月7日から7月13日までの間、ひだかガイアナイトとして地球温暖化防止・エコライフに関するパネル展示を日高振興局エントランスホールにて、キャンドル等の配布を日高振興局エントランスホール及び浦河町役場ロビーにて行いました。

また、10月の3R推進月間にあわせ、10月20日に、浦河町総合文化会館で開催されたうらかわ消費生活展にて、3R推進・エコライフに関するパネル展示や啓発物品の配布を行いました。

■ひだかガイアナイト(パネル展示、キャンドル等配布) ■うらかわ消費生活展(パネル展示、啓発物品配布)



2 エゾシカ対策

日高管内では、エゾシカの農林業被害は増大しており、地域の課題となっています。

農林業被害の8割近くは牧草ですが、牧場付近での銃器によるエゾシカの捕獲は、軽種馬や和牛を誤射する危険性があるため、日高振興局では、くくりわなによる捕獲を促進しています。

わな免許取得初心者等を対象に、捕獲技術を伝える「狩猟免許出前教室」を管内2カ所で開催し、34名の方に参加いただきました。

また、平成28年11月14日には、新ひだかFood倶楽部と協力し、「エゾシカサミット」(セミナーや試食会)を開催しました。

このような取組を通じて、わな免許取得初心者の捕獲技術の向上や、地域資源としてのエゾシカ肉の活用、廃棄物の縮減が図られたものと考えています。

■狩猟免許出前教室



■エゾシカサミット



3 ゼニガタアザラシ学習観察会

近年、襟裳岬周辺を中心に準絶滅危惧種であるゼニガタアザラシの生息数が増加しており、サケの定置網漁やタコ漁などに深刻な漁業被害をもたらしています。

人間とゼニガタアザラシの共存を考えるため、平成 29 年 3 月 25 日に、えりも町の「襟裳岬・風の館」において「親子で考えよう!ゼニガタアザラシ学習観察会」を開催しました。

管内から抽選で選ばれた親子連れなど約 70 名の方に参加いただき、ゼニガタアザラシを観察するとともに、その生態や漁業との共存などについて理解を深めました。

■スライドを用いて生態を説明



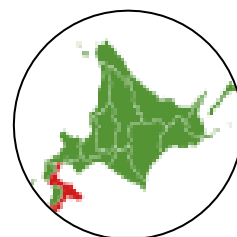
■望遠鏡でアザラシを観察



■岬突端からアザラシを観察



＝【渡 島】＝



1 豊かな大沼の自然～環境保全とワイズユース

平成 28 年 3 月に開業した北海道新幹線「新函館北斗駅」からも近い大沼公園地区は、美しい景観と多様な生態系で知られ、平成 24 年 4 月には大沼をはじめとした湖沼群周辺が道南では初のラムサール条約湿地に登録されました。しかしその一方で、富栄養化による水質の悪化が見られ、特に夏場などに発生するアオコは生態系への影響や観光地としてのイメージを損なうものとなっており、湖沼環境の保全が求められています。

大沼の環境を保全してゆくためには、これまでの大沼のことをあまり知る機会が無かった多くの住民の方々に関心を持ってもらうことも大切であり、渡島総合振興局では、七飯町、七飯町歴史館、大沼ラムサール協議会、北海道国際交流センター、七飯大沼国際観光コンベンション協会、自然公園財団大沼支部ほか多くの皆様に協力をいただき、平成 29 年 1 月 21 日、函館市内大型書店内にて「豊かな大沼の自然～環境保全とワイズユース」と題し、トークセッション、スライドショー、パネル展などを行いました。

会場では、子供たちを対象に大沼に生息するエゾモモンガの塗り絵や、大沼の魅力を感じる体験講座として、おいしい野菜講座やキャンドルづくり講座などを実施し、多くの皆さんに大沼の豊かさを知っていただけました。

■「豊かな大沼の自然～環境保全とワイズユース」の様子



2 大沼国定公園の橋梁整備

大沼国定公園は、渡島半島の中央部分に位置し、駒ヶ岳を中心に大沼、小沼、蓴菜（じゅんさい）沼を有し、七飯町、鹿部町、森町にまたがって広がる自然公園で、函館市中心部から約 28 km（JR 函館駅からは、特急では約 30 分、車では約 45 分）、函館空港からは約 33 km、北海道新幹線「新函館北斗駅」とは約 10 km の近さにあります。

JR 大沼公園駅の近くには公園広場があり、ここは大沼を訪れる観光客なら必ず立ち寄る場所で、写真撮影や遊覧船利用などの拠点となっています。

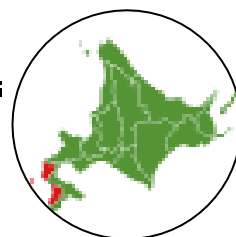
大沼には、見所が沢山ある自然探勝路が整備されており、この自然探勝路を歩くことで、より身近に大沼の自然を感じることができます。この自然探勝路は、多くの小島を結ぶ橋があり、心地よい風が渡る湖畔に沿って歩くことができる「大沼コース」と「小沼コース」があります。

渡島総合振興局では、北海道新幹線の開業に向け、平成 24 年度からこれらの橋のリニューアルを行っています。平成 27 年度に整備が完了した大沼コースでは、駒ヶ岳の優美な姿のほか、変化を見せる景色を楽しみながら歩くことができます。また、所々にベンチやコースを解説する看板などを設置してありますので、目の前の景色をゆっくりと味わいながら歩いてみてください。

■公魚（ワカサギ）橋付近



＝【檜 山】＝



1 「ひやまりサイクル工作コンクール」の開催

檜山振興局では、管内の小学生を対象に、平成 10 年から「ひやまりサイクル工作コンクール」を実施しています。このコンクールでは、身の回りの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く大切に使う」、「使わなくなった物は資源に回す」という意識の普及啓発を図ることで、地域のリサイクル活動及び環境行動の実践を推進することを目的としています。

19 回目の開催となった平成 28 年度は、檜山管内の 19 校から 329 作品の応募がありました。作品は 7 町 9 カ所の町民文化祭会場等で展示され、多くの住民に啓発ができました。

■振興局で開催した全作品展示会



■振興局で開催した入賞作品展示会



2 自然環境教室

檜山振興局では、自然に親しみ、環境に関する知識を普及する活動として、自然環境教室を開催しています。

平成 28 年度は、森林探索や森と川と海のつながりをテーマとして、管内の小学校を対象に「秋の森林教室」と「冬の自然教室」を実施し、合計 41 名の参加がありました。

■秋の森林教室



■冬の自然教室



3 乙部町クリーン作戦

乙部町では、毎年春と秋に、清潔でうるおいのある町づくりを目指し、各自治会・町内会や各種団体を中心に「乙部町クリーン作戦」を実施しています。

例年多くの方が参加する町をあげての清掃活動で、平成 28 年度は 4 月 24 日と 10 月 2 日に延べ 1,279 名が参加して実施されました。参加者は、各地区ごとに決められた集合場所に集まった後、自治会長、町内会長の指示により、道路の路肩や、海岸近くに捨てられたゴミを協力して集めました。

この活動によって約 3 t のゴミが回収された他、あわせて、家庭からの粗大ゴミの約 9 t も同時に回収されました。

町では、この活動をとおして、街並みや景観を守り、よりきれいな町にしていくための一人ひとりの意識改善についても呼びかけました。

なお、檜山管内その他の町においても、町内一斉清掃などに、きれいな町づくりの取組がすすめられています。

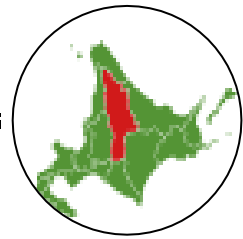
■緑町での清掃活動の様子（4月）



■豊浜での清掃活動の様子（10月）



＝【上 川】＝



1 エコ&セーフティドライブ

道は、環境負荷の少ない運転をすることで、二酸化炭素排出量の削減と交通安全を一体的に推進するため、「エコ&セーフティドライブ」の普及を進めています。

上川総合振興局では、平成 28 年 8 月 20 日、旭川地場産業振興センターで開催された「トラックふれあいフェスティバル」（主催：（一社）旭川地区トラック協会）に、エコ&セーフティドライブの啓発ブースを出展しました。

ブースでは、エコ&セーフティドライブに関するパネル展示や、環境に優しい蜜ろうを使ったろうそく作り体験会を実施するとともに、使用時に二酸化炭素を排出しない水素を燃料とする自動車（燃料電池自動車）の普及に向け、展示会と試乗会を開催しました。

また、多くの家族連れで賑わう会場では、「環境忍者えこ之助」が、子供たちと積極的に交流するなど、幅広い世代の来場の方々に、エコ&セーフティドライブや低炭素社会の実現に向けた取組についての理解を深めていただくことができました。

■えこ之助とふれあう来場者



■蜜ろうろうそく作りに取り組む来場者



2 キャンドルナイト in 旭川

平成 28 年 6 月 18 日と 12 月 17 日の 2 日間、旭川市市民活動交流センター CoCoDe で「キャンドルナイト in 旭川」（主催：NPO 法人旭川 NPO サポートセンター）が開催されました。夜に電気を消して、環境について考える機会や、スローな時間を楽しむ空間を提供することを目的としており、上川総合振興局もブースを出展しました。

ブースでは蜜ろうを使ったろうそくとエコバッグ作りの体験教室を実施したほか、3R 推進などの啓発用ティッシュを配布しました。また、屋外ではキャンドルが点灯され、来場の方々はキャンドルの灯りに心を癒やされていました。

■エコバッグ作りに取り組む来場者



3 地域環境普及学習事業「自然観察会（スノーシューツアー）」

地域の自然環境を深く理解してもらうため、平成 29 年 3 月 4 日（土）、旭川市 21 世紀の森において、大雪山倶楽部の方を講師としてお迎えし、一般参加者など総勢 26 名による「自然観察会（スノーシューツアー）」を開催しました。

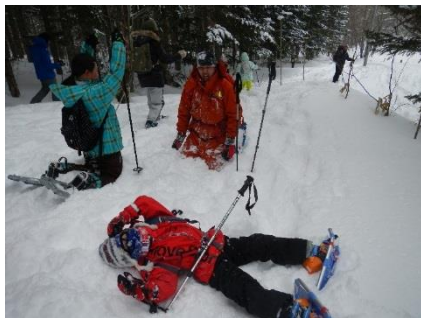
スノーシューで、森を歩きながら、身近な樹木にも様々な種類があることや、鳥獣の痕跡などが雪上に残されていることを知り、自然を見て肌で感じることができました。

他にも、クイズ等を行いながら散策をし、山頂の展望台から大雪山連峰などの雄大な景色を眺めたり、事前にスタッフが製作した滑り台を楽しむなど、参加者各々が身近な自然環境に関わるきっかけとすることができました。

また、ツアー終了後には、蜜ろうキャンドルの工作を行い、地球温暖化対策についても考えました。

今後も、こうした身近な地域の自然環境、環境教育に関する啓発活動を行っていきます。

■スノーシュー体験の様子



4 登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～

大雪山国立公園の姿見の池周辺は、旭岳の噴火口、姿見の池や夫婦池、キバナシャクナゲやエゾノツガザクラなどの高山植物等や、ハイマツ帯に止まっているギンザンマシコをより間近に観察できる場所です。この場所は、ロープウェイを利用して訪れることができるため、登山者だけではなく、国内はもとより海外からも多くの観光客が訪れる道内有数の観光名所となっています。

一方、利用者の増加や降雨等の自然現象により登山道の浸食や崩壊が進んでいるため、上川総合振興局では、登山道での事故の可能性を減らすとともに、大雪山の優れた自然環境の保全を図り、貴重で豊かな自然を次世代に引き継ぐことを目的として、平成28年9月3日に地元の山岳ガイド会社と共催で「登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～」を開催しました。

当日は一般参加者のほか、山岳会等の関係者や行政機関の職員など総勢32名により、丸太や現地石等を活用し登山道の段差解消の作業や、木道補修などを行いました。

今回の補修作業は、一般参加者と山岳関係者などが一緒に作業することにより、参加者全体の環境保全意識の向上に繋がり、また、山岳事故の未然防止にも寄与できたと考えています。

今後もこうした官民協働によるセミナーを継続して行うことにより、山岳環境保全意識の向上に努めていきます。

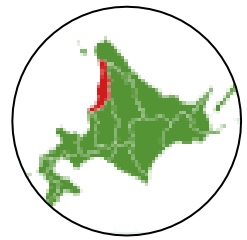
■補修作業の様子



■参加者のみなさん



＝【留 萌】＝



1 増毛山道再生

暑寒別天売焼尻国定公園の急峻な断崖の増毛海岸を貫く国道 231 号線は、昭和 56 年に開通しましたが、かつて、交通の難所とされたこの区間を迂回すべく、江戸幕府の命を受け、増毛の漁場を請け負っていた商人「伊達林右衛門」により安政 4 年(1857)に開削されたのが増毛山道です。

この山道は、昭和 16 年の駅通廃止から使われなくなり、いつしか草木に埋もれていましたが、平成 21 年から留萌振興局の取り組みとして NPO 法人増毛山道の会とその再生作業に着手し、平成 27 年に雄冬山直下までの開削をもって、留萌側の再生が完了しました。

毎年開催している NPO 法人による増毛山道体験トレッキングにより、国定公園内の豊かな自然、武好駅通跡地、当時の電信柱、橋の石積み、仏様の台座、更に、遠く三河の花崗岩で造られた水準点等も見ることができます。

平成 28 年度の体験トレッキングは、従来のフル(16km)、ミドル(11km)、アタック(21km)に加え、新たに増毛町内での飲食を組み込んだ「増毛果樹園秋のフルーツと國稀コース(10km)」を設定しました。また、7 月に、石狩側の増毛山道の一部区間である浜益御殿 3.5km の範囲が再生されたことから、その区間におけるトレッキングが、8 月 11 日の「山の日」に合わせて、地元自治体主催により行われました。

その後、石狩側の浜益御殿から留萌側の雄冬山直下までの開削作業が進められ、平成 28 年 10 月 16 日の作業完了をもって増毛山道が全線開通し留萌と石狩が繋がりました。

■増毛山道留萌側開通地点



■増毛山道開通式関係者一同



2 3Rなどの普及啓発（フリーマーケット等の開催）

留萌振興局では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）や地球温暖化防止の啓発事業として、フリーマーケット（留萌リサイクル運動の会と共催）をはじめ様々なイベントなどを開催しました。

（1）6月（環境月間）開催イベント

環境月間の 6 月は、地域住民の皆様に環境保全への関心を高めていただくことを目的として、平成 28 年 6 月 19 日に留萌合同庁舎の駐車場を開放し、23 店舗が出店するフリーマー

ケットと、庁舎内での3Rパネル展を併せて実施しました。

出店者も含め約 620 人の来場者は、熱心に各店舗を回り、品定めする姿が見られました。

(2) 10 月（3R 推進月間）開催イベント

3R 推進月間の 10 月は、地域住民の皆様には 3R への理解と協力を目的として、平成 28 年 10 月 22 日に留萌合同庁舎の講堂を会場にしてフリーマーケットを開催しました。

この事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅フェスタ 2016」の一事業として実施しており、来場者は、他の事業も含めて約 810 人でした。

(3) 12 月（地球温暖化防止月間）開催イベント

地球温暖化防止月間の 12 月は、地域住民の皆様には地球温暖化に関する理解と関心を深めていただくことをテーマとして、平成 28 年 12 月 17 日に留萌合同庁舎の講堂を会場に、フリーマーケットと、「蜜蝋キャンドルづくり」を併せて実施しました。環境生活課職員がキャンドルの作り方を教えるなか、キャンドルづくりを楽しむ子供たちの姿が見られました。

本事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅クリスマス」の一事業として実施しており、来場者は他の事業も含め、約 580 人でした。

■フリーマーケット（6月）



■フリーマーケット（10月）



■蜜蝋キャンドルづくり（12月）



3 留萌管内における流木処理コストダウン

留萌振興局では、海岸漂着物処理のコスト削減が、今後、重要な問題となってくると考えられることから、平成 28 年度に効果的な海岸漂着物処理のコストダウン方法の試行を実施しました。

苫前町において、町内に流木の仮置き場を確保し、町と振興局がそれぞれ回収した流木を仮置きし、移動式破砕機を現場に持ち込み、一括大量処理を行うことでコストダウンを図りました。

苫前町内の海岸から約 1 km 程度の町有地を仮置き場とし、苫前町と振興局のそれぞれが回収した流木を現場で破砕し、木質チップとし、旭川市の製紙工場で燃料として利用しました。

その結果、従来の処理方式と比較して、約 1/2 程度にコストダウンすることが出来たものと推定されます。

今回の試行を参考にし、スケールメリットを生かすことで、他の市町村でもコストダウンが可能になると考えています。

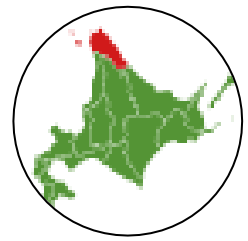
■苫前町流木の仮置き場



■仮置き場に破砕機を持ち込み
木質チップに破砕



＝【宗 谷】＝



1 高山植物盗掘防止の取組

礼文島は、標高が低い場所でもレブンアツモリソウなどの希少な高山植物を身近に観察できることから、植物の開花シーズンになると毎年多くの観光客が訪れます。

宗谷総合振興局では、希少な高山植物を守るため、関係機関と連携しながら、毎年6月と7月の2ヶ月間、「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れる観光客に対し、リーフレットの配布などを行うほか、振興局をはじめとする関係機関の職員や道の生物多様性保護監視員による盗掘監視パトロールを実施しています。

礼文町では、生物多様性基本法に基づき、礼文町生物多様性地域戦略「礼文島いきものつながりプロジェクト」を策定し、礼文島にある多様なつながりの保護と保全、恵みの継続的な活用に向けた取組みを進めています。その一つとして、礼文島でみることができる植物をモチーフにした記念バッジを販売し、「礼文島リボンプロジェクト」として、その益金を礼文島の自然のために有効に活用しています。

■レブンアツモリソウ



■レブンウスユキソウ



■レブンコザクラ



2 宗谷クリーンアップ運動

北海道洞爺湖サミット開催（平成 20 年 7 月）を通じて高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、宗谷総合振興局では、平成 21 年度から「宗谷クリーンアップ運動」を展開しています。

取組としては管内各地の清掃活動への参加、6月の環境月間におけるパネル展の実施、また「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体を募っています。

清掃活動については、平成 28 年度は7箇所に参加しました。

また、サポーター団体数は平成 29 年 8 月現在で 59 団体となっています。

■幌延町における清掃活動の様子



3 利尻礼文サロベツ国立公園における歩道の協働管理

宗谷管内に位置する利尻礼文サロベツ国立公園は、昭和49年に指定された日本最北の国立公園で、平成26年度に指定40周年を迎えました。公園区域は24,166haで、稚内市、豊富町、幌延町、礼文町、利尻町、利尻富士町の1市5町にまたがり、抜海・稚咲内海岸、利尻・礼文の両島及びサロベツ原野を含んでいます。公園内には、洋上にそびえる独立峰利尻山（標高1,719m）をはじめ、高山植物のお花畑が広がる礼文島や日本最大級の高層湿原を有するサロベツ湿原、南北約40kmにわたって続く海岸砂丘など変化に富む豊かな景観が広がってます。

礼文島では、お花畑や景観等を楽しめるよう、島内を縦横に7つのトレイルコースが設定されており、安全に利用できるよう、行政やNPO法人、地元観光関係者を含めた関係機関の協働管理により、痛んだ歩道の補修などを行なっています。

平成28年度には、桃岩展望台コースで腐食した木柵の撤去や、岬めぐりコースにあるゴロタ山山頂付近への階段の設置を、協働作業により実施しています。

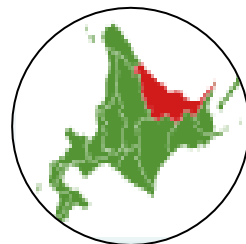
■腐食した木柵の撤去作業



■ゴロタ山付近での階段設置作業



ー【オホーツク】



1 クールオホーツク

オホーツク地域では、エリアカラーの「オホーツクブルー」（近い色を含む）を家庭や職場に取り入れた涼感の演出や、省エネ活動によるエコライフへの転換など、地球温暖化防止活動を地域活性化につなげる「クールオホーツク」の取組を展開しています。

■オホ・シャツを着用したクールオホーツクの啓発

平成28年度は、7月1日から8月31日までの2ヶ月間を実施期間とし、期間中の毎週水曜日を「クールオホーツクの日」としてオホーツクブルーを地域のブランド色として確立させ、エコでクールなライフスタイルへの転換を推進しています。

また、クールオホーツクの趣旨に賛同する企業・団体を募集・登録し、クールオホーツクの取組に積極的に参加いただきました。



オホーツク総合振興局では、実施期間に先立って、この取組を幅広くPRするため、クールオホーツク・キックオフイベントを開催し、環境工作の体験などを行い、約100名の方々にご参加い

ただきました。

なお、オホーツク総合振興局有志により、クールオホーツク啓発用ポロシャツ（通称：オホ・シャツ）を作成し、積極的に着用しました。

2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間行事の一環として、獣医師会、動物愛護推進員、ボランティアとともに動物愛護週間イベントを開催しました。

動物病院の先生と猫カフェ代表の方による講演会、獣医師会によるペットの飼育・健康相談、かわいい猫の写真展や動物愛護に関するポスター展示などで、ペットの愛護、適正飼育やマナーについてPRを行いました。

「猫と一緒にハッピーライフ」と題した講演会は、会場では立ち見の方が出るほど大盛況でした。ペットの飼育・健康相談では、飼い主さんが日頃気になっていることを気軽に相談していて、動物愛護や適正飼育に対する理解を深めるイベントになりました。

■講演会の様子



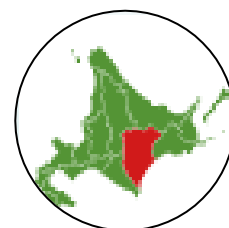
■猫のパネル展



■動物愛護ポスター展示



=【+ 勝】=



1 「もっとエコなとかちづくり」～とかち地域資源活用・価値創造事業～

十勝総合振興局では、平成20年度から「もっとエコなとかちづくり」を合言葉に低炭素型ライフスタイルの定着・促進を目指した取組を行っています。

平成28年度は、帯広市内で開催された「とかち・市民『環境交流会』2016」に出展し、地域で社会貢献活動を実施している環境コンサルタント会社の方を講師として、小学生以下向けの「エコエネルギー（燃料電池）と音の体験教室」を実施したほか、「エコドライバーズ宣言」の呼びかけや、「不法投棄やめさせ隊」の募集等、地域で取り組む環境保全について啓発活動を行いました。

■環境体験教室



2 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

地域の商店街及び帯広市の協力のもと「おびひろ広小路ビアガーデン」において「ガイアナイトinおびひろ」を開催。

普段は賑やかなビアガーデンの照明を消灯し、幻想的なロウソクの灯りの下で仕事帰りの職場の仲間や、家族連れなどの方々に、地球環境について考え思いをめぐらせていただきました。

■会場の様子



3 北海道地球温暖化防止活動推進員及び環境保全団体等との連携

日々の生活の中で温暖化対策の選択と実行を促していく機会とするため、地球温暖化防止月間である12月に、環境保全団体等との共催で、「あかり（灯り）」を題材にした地球温暖化防止セミナーを開催しました。

北海道地球温暖化防止活動推進員等の講話のほか、キャンドル作家を招いたキャンドルづくり体験を通じて、私たちができるこれからの温暖化対策について地域の皆さんと考えました。

■会場の様子



4 動物愛護週間行事のイベント

十勝獣医師会、帯広市、おびひろ動物園、帯広畜産大学、北海道盲導犬協会、動物愛護団体などの協力を得て、十勝総合振興局駐車場で「動物ふれあいフェスティバル」を開催しました。

獣医師体験、盲導犬ふれあい体験、犬のお散歩体験、モルモットとウサギとのふれあいなどの体験型イベントのほか、動物骨格標本の展示、動物愛護やアニマルウェルフェアに関するパネル展を行い、動物愛護に関する普及啓発を行いました。

■獣医師体験



■骨格標本の展示



5 「TREE FESTIVAL」

「TREE FESTIVAL」は、十勝の木に触れて遊んで学べるイベントです。

近年、エゾシカが増加しており、餌の確保ができなくなったエゾシカが、森林に生息している草木を食べつくすことで植生が悪化してしまうことが問題となっています。

十勝総合振興局では、「TREE FESTIVAL」において、地域住民にエゾシカについて知ってもらうためにエゾシカ問題を紹介するパネルと、シカの角を使った工作体験コーナーを出展し、皆様に理解を深めていただきました。

■会場の様子



6 エゾシカ出前講座

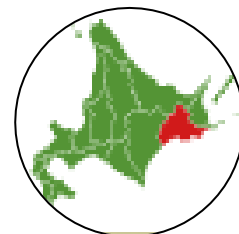
十勝総合振興局では、十勝にある高校7校を訪問し、エゾシカ問題やエゾシカの有効活用についてお話をしました。

高校生の皆さんにはエゾシカ問題の解決策について班で議論をしたあと、エゾシカ肉の試食をしていただき、楽しみながら理解を深めてもらうことができました。

■受講の様子



=【釧 路】=



1 「くしろ消費者まつり」会場における環境啓発の実施

釧路市では毎年2月に釧路消費者協会主催で「くしろ消費者まつり」が開催されています。

平成28年度は平成29年2月4～5日の2日間にわたって開催され、約1万1千人の方が訪れました。

釧路総合振興局は、釧路市と合同で環境啓発ブースを出展し、グリーン購入の紹介や環境を守るために私たちにできることと題したパネルの展示を行った他、リサイクルグッズを紹介するなどの啓発を行いました。

特に「エコドライブシュミレーター」のコーナーはゲーム感覚で楽しめることから大人気で、2日間で150人の子供たちが体験しました

■「エコドライブシュミレーター」体験の様子



2 傷病野鳥レスキュー講座

各（総合）振興局には傷ついたり弱ったりしている野鳥が保護されてきます。

釧路総合振興局では人と野鳥の関わりや保護収容の現状を知ってもらうため、平成28年8月に「傷病野鳥レスキュー講座」を開催しました。初めての試みでしたが定員を超える24名の申込みを受けることができました。

前日の台風の影響で、会場となった環境省釧路湿原野生生物保護センターは停電というトラブルの中でしたが、野鳥に関する法令の解説、実際に傷病野鳥を見つけた場合はどのようにすべきかなど、初めて聞くお話に参加者は興味津々の表情を見せました。

会場の野生生物保護センターは、野生復帰を目指すシマフクロウなどの希少猛禽類が収容されている施設でもあります。普段は立入ることができない処置室やフライングケージを見学することができます、野生の命を実感する日になりました。

■会場（環境省釧路湿原野生生物保護センター）の様子



3 2016 動物愛護フェスティバル in くしろ

動物愛護週間にちなみ、平成 28 年 10 月 8 日に釧路市内で開催したこのイベントのテーマは「今年はまるごと猫まつり！」でした。

動物愛護団体の釧路アニマルレスキューRedHeart による猫の譲渡予約会では、迷子札などのペットグッズが無料で製作できる体験屋台がオープンするなど、工夫を凝らした催し物で入場者を楽しませました。

お話し会では、釧路市動物園の獣医さんから「動物園とネコの話」を、総合振興局職員からは「くしろの猫事情」と題し、猫にまつわる知識から不幸な猫を増やさないためにすべきことが披露され、真剣に聞き入る方が大勢いらっしゃいました。

このほかペットの無料相談も開かれ、延べ 230 名の参加者で「猫まつり！」は盛況となりました。

■会場の様子



4 タンチョウ越冬分布調査

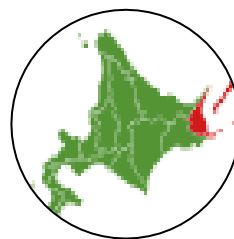
環境省の委託を受け北海道が実施しているタンチョウ越冬分布調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータになるだけでなく、子供たちの環境教育にも役立っています。

平成 28 年 12 月の調査では、地元の小学生 63 名（11 校）中学生 90 名（5 校）合わせて 153 名の参加を得て、釧路管内で 681 羽のタンチョウの生息が確認されました。

■タンチョウの様子（雪裡川・音羽橋付近）



＝【根 室】＝



1 世界自然遺産・知床の日

知床がユネスコの世界自然遺産に登録されたのは、平成 17 年 7 月 17 日。それから 10 年、改めて知床の価値を見つめ直し、私たち北海道の大切な財産を、未来の世代へしっかりとつなげるようにという目的で、道は、平成 28 年 3 月に、知床の保全や適正な利用を推進するための北海道知床世界自然遺産条例を制定するとともに、平成 17 年に、知床で流水が接岸した最初の日である 1 月 30 日を「知床の日」としました。

根室振興局では、平成 28 年度は、「世界自然遺産・知床の日」に協賛するイベントが地元の町や道庁赤れんがで開催されることにあわせて、1 月 30 日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させることを目的として、1 月 26 日と 27 日に、根室管内の主要な商業施設等において街頭啓発を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の該当啓発活動を行いました。

2 ねむろバイオマスセミナーの開催

根室地域に豊富に存在するバイオマス資源の利活用の促進を目的として、平成 29 年 2 月 28 日に、根室市総合文化会館にて「ねむろバイオマスセミナー」を開催しました。

セミナーは 3 つの講演から成り立っており、最初の講演では、地域の物質と経済の循環の観点からバイオマスを活用する意義と、再生利用率が低い食品廃棄物（家庭生ごみ含む）の活用事業計画の考え方についての説明しました。

続いての講演では、バイオマスの混合処理による活用事業の推進事例をテーマに、全国のバイオマスの混合処理事例を踏まえ、バイオマス活用事業成立に必要な案件について、説明をして頂きました。

最後に、平成 19 年 10 月に稼働した鹿追町環境保全センター・バイオガスプラントの建設までの計画や稼働状況、水素実証事業への取組などについての講演しました。

今後もバイオマスの有効活用に向けた取組を積極的に進めていきたいと考えています。

■会場の様子

